
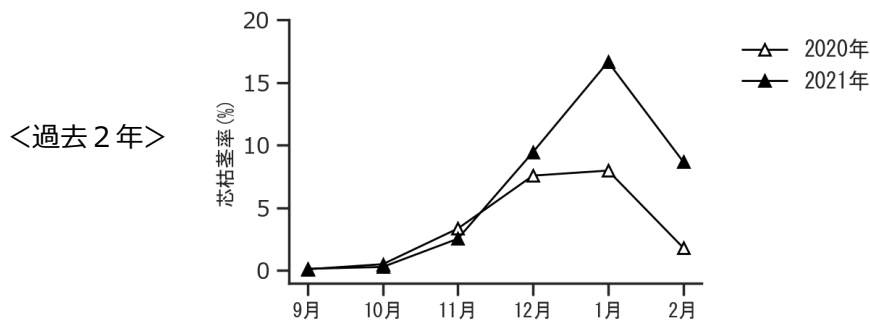
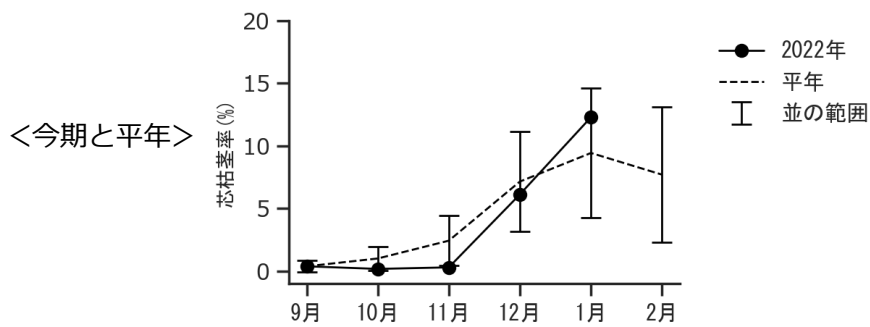


作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	1 月からの増減傾向	↓		
	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


芯枯茎率の推移



- ・メイチュウ類の優先種はイネヨトウであった。
- ・発生ほ場率100% (平年 : 96.8%)

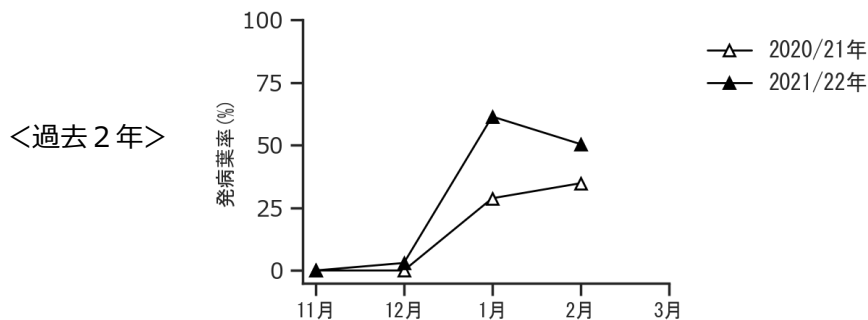
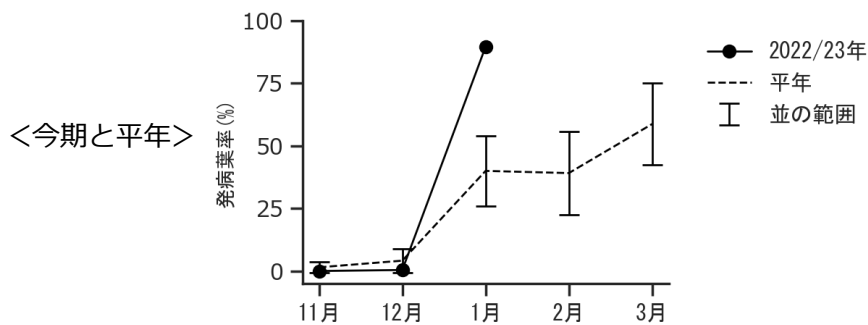
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	多	
予 報	1 月からの増減傾向	→	
	2 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 100%)

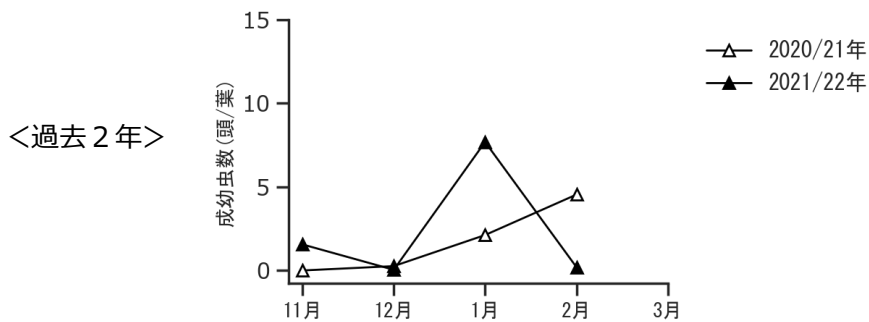
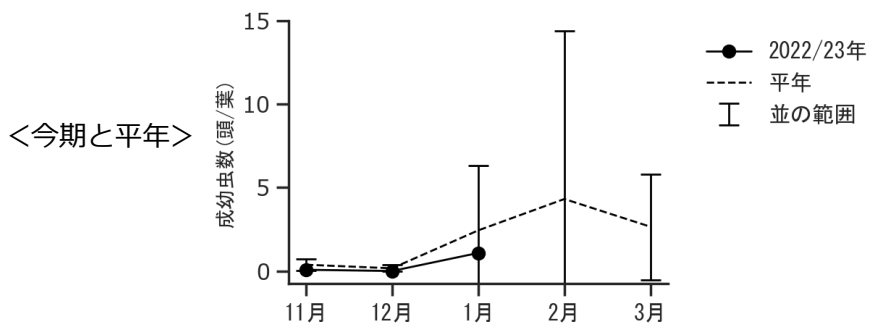
防除のポイント

- ・着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・窒素過多にならないように肥培管理を行う。
- ・発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。薬剤が十分に散布されないと効果がないので、5～7日間隔で2回程度の連続散布を行う。
- ・薬剤耐性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	② アブラムシ類		 <p>有翅虫</p>
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報	1 月からの増減傾向	↗	
	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成幼虫数の推移




・発生ほ場率60.0% (平年 : 66.7%)

防除のポイント

- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- ・本種はウイルス病を媒介する。

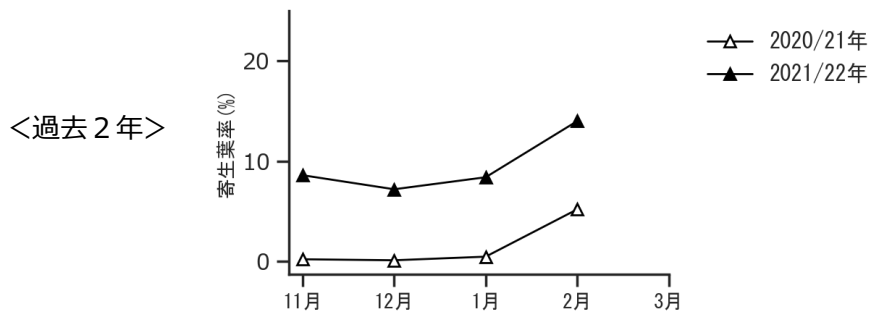
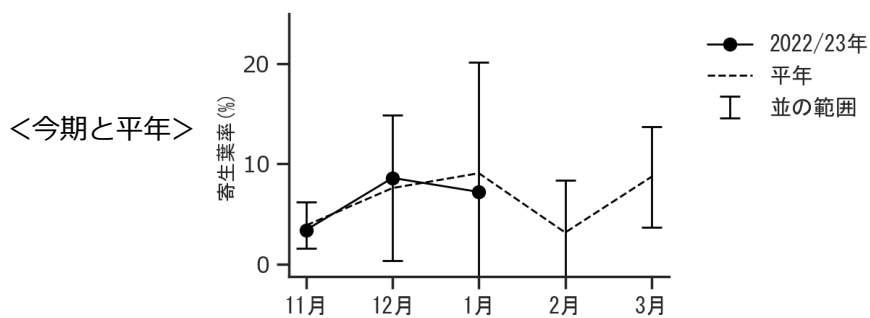


無翅虫

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報	1 月からの増減傾向	↘	
	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

寄生葉率の推移




・発生ほ場率60.0% (平年 : 60.6%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

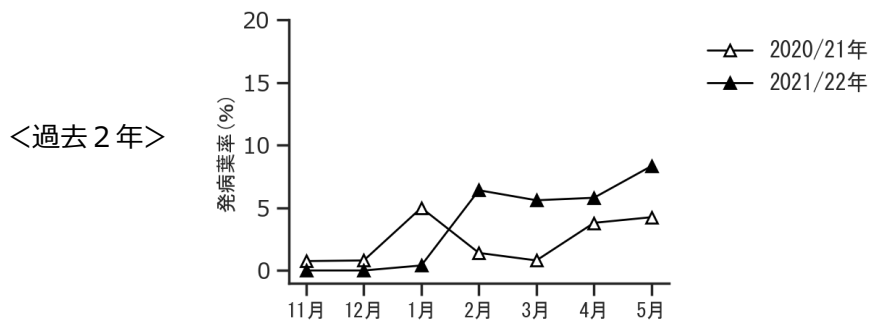
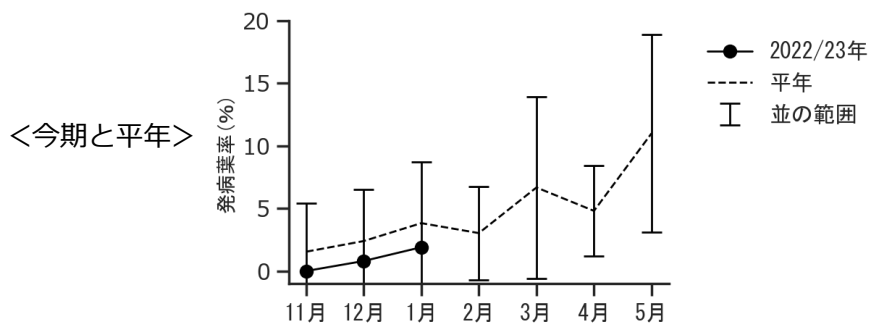
幼虫の死骸  
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	① 斑点病			
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 62.5%)

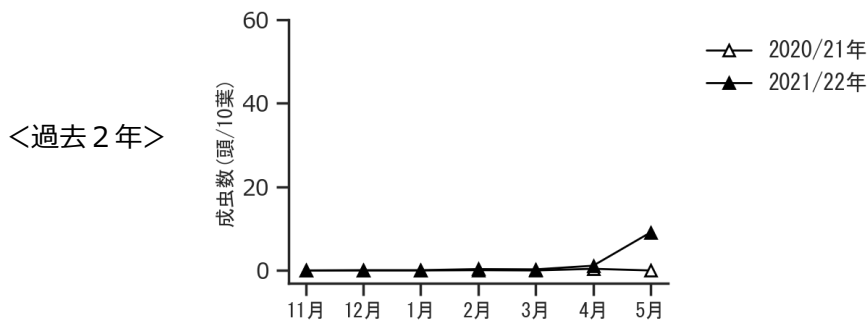
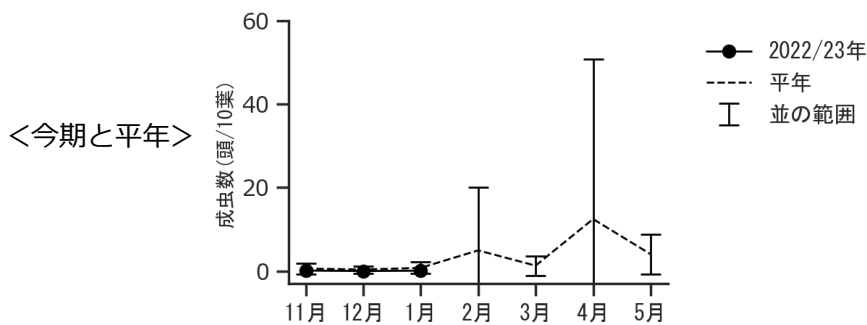
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	② タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報	1 月からの増減傾向	↗		
	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率40.0% (平年：17.5%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。



幼虫